

事務事業No.	17-	8
事業名	図書館経費	
会計	款	項
一般	10	5
目	4	
施策	3	心豊かなまち
	3-1	生涯学びのあるまちをつくる
	3-1-3	生涯学習の推進
主要施策	②図書館の充実	

① 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	町民（図書館利用者）	目的（対象がどのような状態になっているか）	図書を中心として町民が様々な学習のできる場を提供する。
事業内容	必要な資料（図書、雑誌、AV資料等）の収集、整理、保存を行うことを基軸として、閲覧サービス、貸出・予約サービス、リクエストサービス、他館との資料相互貸借を行うほか、レファレンスサービス（調べ物のお手伝い）、複写サービス等を行う。不用図書等については年1回「リサイクル会」を開催し有効活用を図っている。 また、子ども読書活動を推進するため毎月2回（第2・第4土曜日）ボランティア団体による「読み聞かせ会」を開催している。			

② 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標名		平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	目標方向	令和2年度（目標）
指標	1 町民の利用登録率	85.1	86.0	86.5	%	↑	86.6
	2 町民1人あたりの貸出冊数	7.0	7.0	6.9	冊	↑	7.0
	3 蔵書回転率	1.7	1.7	1.7	回	→	1.7
	4						
	5						
		平成30年度（決算）		令和元年度（決算）	令和2年度（予算）		
全体事業費（千円）A+B				30,290	29,373	29,823	
財源内訳	直接事業費A				11,144	10,227	10,677
	うち一般財源				11,055	10,152	10,626
人件費（千円）B				19,146	19,146	19,146	
内訳	一般職員（人・千円）		1.81	11946	1.81	11,946	1.81 11,946
	臨時職員（人・千円）		4	7200	4	7,200	4 7,200

③ 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善<※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性は高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		町関与の必要性	B 町が担うとともに、町民協働を進めるべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適正である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	I 拡 充（事業を拡充して継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①R1年度の改善計画	町民1人あたりの貸出冊数を昨年度以上とする。ボランティア団体の活動を支援する。	③取組の課題	町民1人あたりの貸出冊数が目標を下回った。
②R1年度に実施した取り組み	読書活動を振興するため、学校教育課の「読書登山」との連携、ボランティア団体による定期的な読み聞かせ会及びイベントなどを行った。	④今後の改善計画	貸出冊数全体を増やすとともに登録者の利用を活発にするためいっそう図書館のPRや働きかけを行っていく。